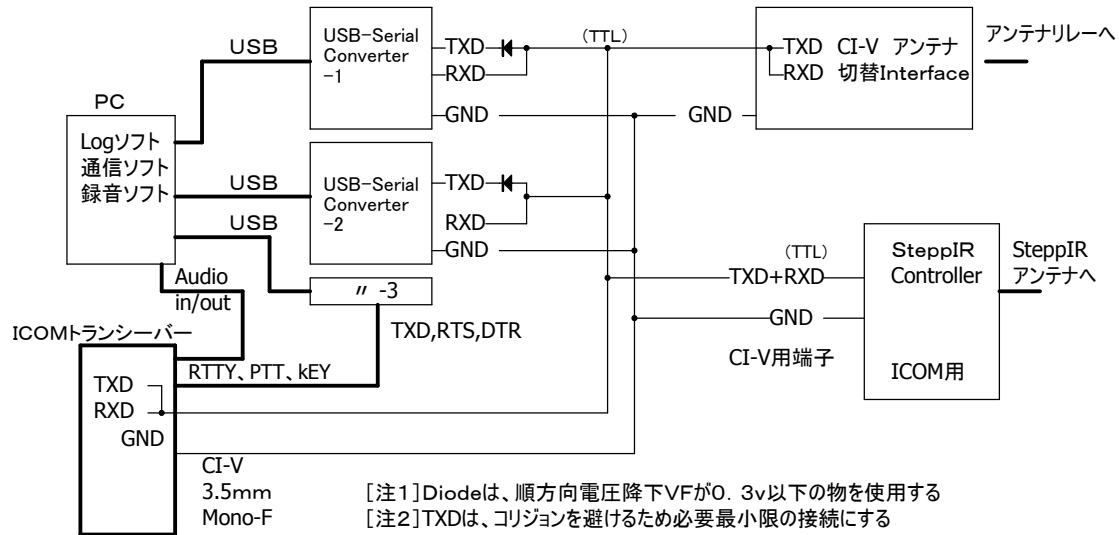
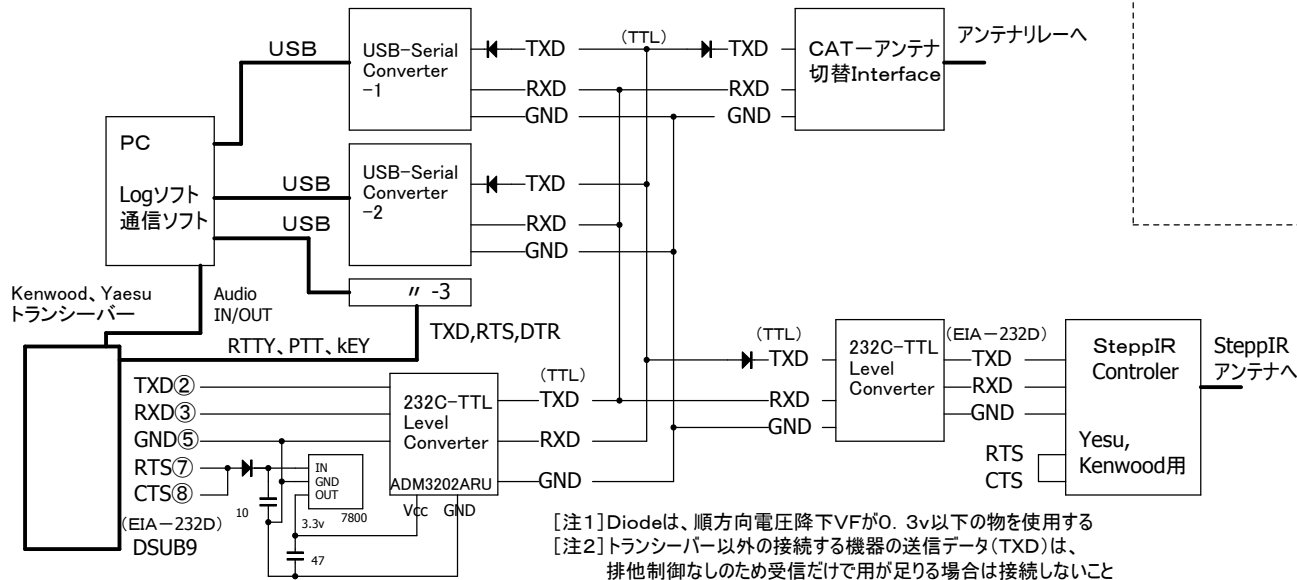


1. ICOMのトランシーバーの通信ポート(CI-V)に複数のポートを接続して通信する

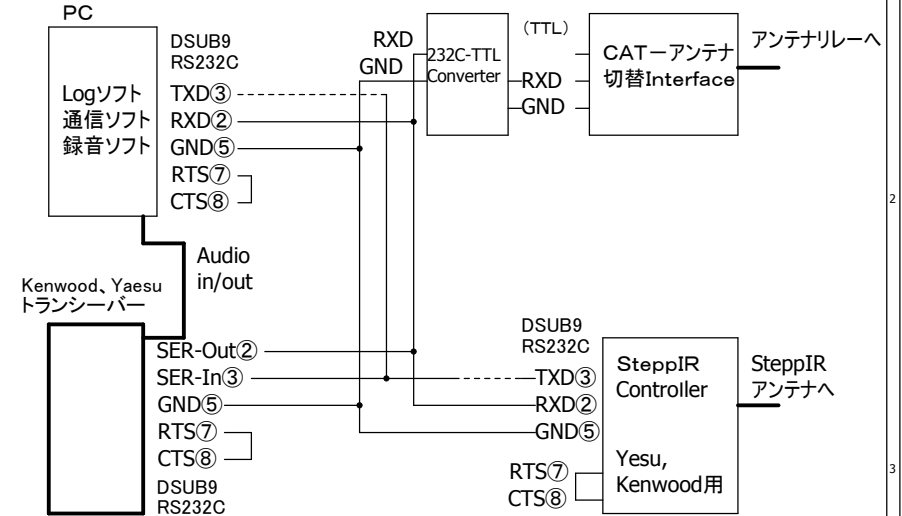


2. YAESU、KENDOODのトランシーバーの通信ポートに複数のポートを接続して通信する

(BUS接続するために、232CからTTLに変換し、DIODEによるワイヤード・オー接続にします。これで安定動作します)



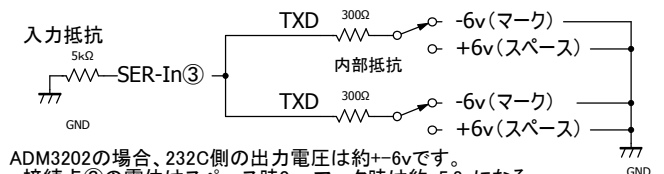
3. YAESU、KENDOODのトランシーバーの通信ポートに複数のポートを接続して通信する(232Cレベルで接続する場合)



トランシーバーの通信相手で、上図のRXDは複数つなくても問題ない。周辺機器のTXDは、複数をつなぐとスペース時の電圧が0~マイナス数Vとなり通信ができない(同じ電圧=同じICの場合)。ICが異なっても通信が不安定になる可能性が非常に高いです。通信はできないと思った方が妥当。

上図の場合、SteppiR-ControllerかPCソフトのどちらかが周波数・モード等のリクエストをTRXに送り、応答信号を共有できれば問題なく動作する。(どれか1つがトランシーバー情報要求を送り、他の機器は受信だけ)各プログラムで求める情報に情報不足が出る可能性がある。SteppiRの情報要求は「IF;」コマンドを使っており、Logger32とは共存可能。

[参考] 232C-TTLコンバーターにADM3202を使った場合の等価回路
2台のTXDを直接接続した場合は、こうなる。



ADM3202の場合、232C側の出力電圧は約+6vです。接続点③の電位はスペース時0v、マーク時は約-5.8vになる。0v-5.8v間のスイングでは、スペースの閾値まで振らない=動作しない(232C入力閾値は、スレッショルドLO:1.2v標準、HI:1.6v標準)

図名	トランシーバー-Interface	年月日	2012. 08
図番	2012-08	作成者	JA4BUA